

あわみなと通信

暮らしを支える港湾と空港の話

はやいもので今年も年末近くとなり、何かとあわただしくなっていました。皆さま如何お過ごしでしょうか。「あわみなと通信」冬号をお届けします。(お手元に届く頃には年が明けています。)

さて今回は、個人的な令和元年の振り返りをしてみたいと思います。

①台風19号の記録的大雨による関東、甲信、東北での甚大な被害に代表されるように、全国的に災害が目立った年となりました。徳島の港湾・空港でいえば、随分と離れて北上したにもかかわらず、うねり(長周期の波浪)によって施設が被害を受け、うねりの怖さを再認識しました。②阿南高専で出前講座の機会を得、また、学識、地元の皆さまと一緒に徳島小松島港の中期構想(案)を創る機会を得て、自らの浅学を再認識しました。③小松島での一人暮らし、朝は自炊、昼はお弁当、夜と土日は外食が多くなります。小松島の讃岐うどん、お好み焼きに絶品のものがあることを、みなとオアシス(Kocolo)で売っているフィッシュカツ、ちりめんの美味さを再認識しました。結びとなりますが、今年も「あわみなと通信」を可愛がっていただき、本当にありがとうございました。



小松島名物 フィッシュカツ



和田島 ちりめん

来年も益々の紙面の充実を図りたく思っておりますので、よろしくお願いします。

それでは皆さま、よいお年を迎えられますよう(よいお年になりますよう)、ご安全に!!

令和元年12月20日

小松島港湾・空港整備事務所長 小田 幸伸

南海フェリー新造船「あい」就航!!

南海フェリーは、徳島小松島港と和歌山港を結んでいるフェリー「つるぎ」「かつらぎ」の2隻を有しており、このたび、「つるぎ」が22年もの長きに渡る運行を終え、新造船「あい」が就航しました。

12月13日、新造船「あい」の内覧会が開催されましたので、ほんの少しですが紹介します。

「あい」の名前は一般公募の中から選ばれ、「I」「愛」そして徳島県の名産「藍」が由来となっており、外観は藍をイメージして、印象的な青色のデザインとなっております。

また、船内は女性専用のスペースやパウダールーム、見晴らしの良いグリーン席やWi-Fiの完備等、様々なニーズに対応して、快適な旅をサポートする配慮が感じられました。皆さんも機会があれば乗船してゆったりとした船旅を体験してみたいはいかがでしょうか?



新造船「あい」外観 船尾には大きく「愛」がデザイン



パウダールーム



令和元年度手づくり郷土賞 受賞 ～全国24件中徳島県内は2件受賞!～

地域の個性、伝統、文化を利活用し、魅力ある地域作りに成功している活動を国土交通省が表彰する「手づくり郷土賞」に、令和元年度は、徳島県内の沖洲海浜楽しむ会と徳善襖絵からくり舞台実行委員会が受賞しました。12月14日には東京で全受賞者による発表会が行われ、惜しくもグランプリ受賞には至りませんでしたが、徳島県内での取り組みについて全国に広くPRできたと思います。

令和2年2月～3月には四国地方整備局長から認定証の授与が行われる予定です。詳細は国土交通省HPよりご確認頂けます。

小松島みなと交流センター交流スペースがオープン!

執筆：小松島市役所 商工観光課

小松島市が小松島みなと交流センターkocolo(旧フェリーターミナル)でかねてより準備を進めてきた、学生を中心とした若者と地元企業との交流拠点が完成し、11月25日にオープンしました。室内には、無料Wi-Fiを完備しており、小松島港を眺めながら学習・業務作業が行えるワークスペース、ひな壇を設置しセミナーが行えるイベントスペース、モニターを利用しながら会議が行えるミーティングルームがあり、用途により使い分けが可能となっています。

今後は、こちらを若者と企業を結ぶ交流拠点とし、産業振興や中心市街地の活性化等、多様な地域課題について学生・企業を巻き込み解決につなげていきます。

また、交流スペースに加え、1階のカフェ「メーヴェ」内に授乳室が新たに設置されております。様々な用途でみなと交流センターを利用頂けるように、今後とも工夫を続けて参ります。



ワークスペース



授乳室

港お仕事取材 第二回 ～より小松島市を楽しんでもらうために～

皆さんは港に携わる仕事についてどれくらい知っていますか？本コーナーでは、港に携わる方々の仕事について、数回に分けて紹介します。前号に引き続き昨今話題のクルーズ船の対応に奮闘している方々に取材しました。今回は、小松島市商工観光課の方々から、クルーズ観光客の満足度を向上させる取り組みについて紹介します。

Q1 クルーズ船寄港にあたって、どのようなお仕事をされていますか？徳島県との仕事の違いは何ですか？

A 私たちはクルーズ船寄港時のテント等の設営や、物品販売の補助、お出迎え・お見送りイベント、小松島市内を楽しめるツアーの企画を行っております。基本的には、徳島県と協力して、クルーズ船のおもてなしをしております。

Q2 クルーズ船寄港時の対応で、苦労したことはありますか。

A クルーズ船が小松島市内の岸壁に寄港しても、小松島市内を観光する乗船客が少ないということに苦労しております。理由として、小松島市内の岸壁(特に赤石地区)は中心市街地から遠く、徒歩圏内で巡れる観光地が少ないこと、ツアー会社の企画する有料バスツアー(正式名称:オプションツアー)は観光名所の多い鳴門市や徳島県内に行くことが大きな要因であると感じております。

Q3 クルーズ船乗船客に小松島市を楽しんでもらうために工夫していることはありますか。

A 例えば、今年徳島小松島港に初寄港した「MSCスプレンドリッド」には、小松島市内を循環する無料バスを調達し、あいさい広場をツアーの中心とした特産品の抽選会、人形浄瑠璃、乗馬体験コーナー、銭湯の割引や銭湯行きのシャトルバスを設け、あいさい広場でのイベントを掲載した無料バスツアーパンフレットを作成し、下船客に配布したことや、徳島県内の特産品や観光名所を私ども職員が紹介するプロモーションビデオをバス内で流したりしました。

その結果、「MSCスプレンドリッド」が初めて寄港したときは乗船客約3000人中600人程度しか小松島市内を観光してもらえませんでした。3回目以降の寄港では1200人以上がツアーに参加して頂けるようになりました。

Q4 やりがいを感じたことは何ですか？

A トライ&エラーを重ね、小松島市を観光する乗船客数が増えたり、バス内で流したビデオやパンフレット等、われわれの工夫に満足したという意見が少しずつ増えてきていることにやりがいを感じています。

また、地域ボランティアや市と連携協定を結んだ民間の方からアイデアを頂いたり、地域の学生に物品販売や外国人の通訳、お見送りイベントに参加していただく等、様々な方々の協力の上で成り立っており、彼らと一体となって地域を盛り上げているという感覚が我々職員にやりがいを与えてくれています。

今後も、地域の方々と力を合わせて、クルーズ船観光客を満足させ、地域活性化に貢献していきたいです。



クルーズ船観光客で賑わう
あいさい広場



お遍路体験コーナー
(学生と市役所職員が協力)

こまぼんのなるほど！ みなと講座

～港湾・空港のことをもっと知っていただくために～



ぼくの名前は「こまぼん」。小松島港湾・空港整備事務所のマスコットキャラクターだよ。タヌキの耳としっぽが目印。一般公募によって名前がつけられたんだ。

より一層の港湾保安対策強化に向けて

国際的な連続テロ事案が発生する等、我が国に対するテロの脅威が現実のものとなっている昨今、人及び物の流れの拠点である港湾においても、テロ対策をはじめとする保安対策の一層の強化が求められています。

当事務所は「自己警備の総括責任者」として、徳島小松島港及び橘港における港湾保安対策業務を行っています。通常業務として、国により承認された埠頭保安規程に基づく適切な保安措置をチェックする立入検査をはじめ、定期的な港湾施設の保安巡視、保安情報等の関係機関との連絡調整等を行っています。

12月5日、東京オリンピック・パラリンピックの開催を控えていることを踏まえ、日頃から保安業務で連携している港湾管理者、海上保安部、警察、税関、入国管理局等の機関がそろって、徳島小松島港赤石地区等のフェンス等保安設備を初めて合同で点検しました。参加機関の様々な視点により保安上の気付きや知見について共有を図る貴重な場となり、大変有意義なものとなりました。

これからも引き続き、関係機関と連携し、より一層の安心安全な港湾施設の保安対策を進めてまいります。



赤石地区での合同点検

防災エキスパートとの合同学習会の実施

11月21日、小松島港湾・空港整備事務所において「防災エキスパート※」と当所職員合同で地震災害を想定した訓練を実施しました。

本訓練では、GNSS（衛星測位システム）を用いた被災状況の調査訓練とともに、わかりやすい報告資料とするための測量結果整理手順や写真撮影方法等を確認しました。

今回の訓練により、各施設の構造図等の電子データ保管等、事前準備の重要性が再認識され、有意義な訓練となりました。

※防災エキスパートとは

災害発生時に港湾・空港施設などの災害復旧活動を、迅速、確実、効果的に実施できるように、被災情報収集等の支援活動を行う専門知識を有したボランティアのこと。



GNSS測量実施



岸壁調査実施



報告書とりまとめ

近畿地方整備局と合同で「台風による浮遊ゴミの撤去訓練」を実施

12月9日、今年の台風10号において、流木等大量の漂流物が発生した紀伊水道北部沼島沖において、当事務所と近畿地方整備局和歌山港湾事務所が連携して「台風による浮遊ゴミの撤去訓練」を実施しました。

訓練は、台風により大量のガレキ等が海域に流出し、紀伊水道北部の沼島周辺～徳島沖の海上輸送航路が塞がれたと想定し、当事務所からは海面清掃船兼油回収船「みずき」、和歌山港湾事務所からは同船「海和歌丸」が緊急出動し、2船が連携した浮遊ゴミの撤去及び流出油対策を実施しました。

また、河川から航路への海底土砂流出による埋没状況の確認を目的として、当事務所からは港湾業務艇「ひのみね」、和歌山港湾事務所からは同船「はやたま」も出動し、海面地形を面的に捉えることができるナローマルチビーム測深機を用いた土砂埋没状況調査訓練も併せて実施しました。

訓練を通して、災害への対応力の強化を行うことにより、台風後も確実に緊急物資等の海上輸送に必要な航路を確保でき、船舶航行の安全、安心を提供できるものと考えています。また、今後も定期的に訓練を実施することにより、四国・近畿の両整備局の災害への対応力のさらなる強化も図り、有事の際は連携して迅速に対応を行いたいと考えています。



クレーン作業訓練



コンテナ回収作業訓練



放水拡散訓練



土砂埋没状況調査訓練

阿南高専出前講座 ～未来の技術者達に伝えるみなとの魅力～

12月12日、阿南工業高等専門学校にて、建設コースの学生に対し出前講座を行いました。出前講座では、私たちの生活と港湾・空港の関わりについて説明し、実習として、防波堤の設計計算を行いました。併せて、県内の港湾・海岸事業や私たちの仕事についても紹介しました。

設計計算は少し難しかったようですが、普段勉強していることが実際にどう活かされるのか、理解できたのではないのでしょうか。

質問タイムでは、災害時にはどのような仕事をするのか、といった防災業務に関する質問もありました。近年、自然災害が増えており、学生の防災への関心の高さを感じました。

加えて、講義後のアンケートでは、「経済、生活基盤を支えるのに欠かせない存在」「港湾＝海上というイメージが強く、女性は馴染みにくいと思っていたが、実際にはそんなことはなく好印象になった」等、港湾の必要性、重要性を認識していただき、更に、港湾行政に携わる職員の思いも伝わったと思います。

これからも、当事務所はこのような機会を捕まえ、港湾行政を広くPRし、小松島港湾・空港整備事務所の役割を知って頂きたいと思っております。



出前講座の様子

徳島小松島港を舞台に若手職員のスキルアップ研修を実施

四国地方整備局港湾空港部では、若手職員(採用1年～5年程度)を対象として、四国管内の港湾工事の現場を見学し、座学による知識習得を合わせて効果的にスキルアップを図る取り組みを実施しています。

11月29日、当事務所に四国中から若手職員9名が集まり、徳島小松島港の概要や金磯地区で実施されている岸壁の老朽化対策工事について、当事務所職員や施工業者から対策工事の流れ、施工効率化の工夫等の説明を受けました。金磯地区の岸壁は供用開始から約50年が経過し、老朽化が進行している栈橋式岸壁であり、また、全国的にも老朽化が進行した港湾施設が今後ますます増加すると予測されるということから、若手職員達は真剣に話に耳を傾けており、積極的に質問をする姿が印象的でした。

四国地方整備局港湾空港部では、若手職員の育成を積極的に展開し、最新のニーズを踏まえ社会基盤を支える港湾等の社会資本整備に取り組みます。



金磯地区の現場を見学する職員達



事務所職員コラム 徳島ってええんじょ！

皆様、事務所広報誌をご愛読頂きありがとうございます。前号に引き続き、広報誌の巻末で私たち職員の日常や徳島県の魅力をお伝えするため、今回は若手職員の山崎が筆を執った次第です。

私は生まれが高知県で、昨年徳島県に来て、人生初めての一人暮らしに不安がいっぱいでしたが、今ではすっかり徳島県を気に入って、毎日を楽しんでいます。

私の休日は、日峰山を登り、景色や自然を目一杯感じて過ごしています。日峰山を散策すると、小鳥のさえずり、視界を覆いつくす万緑、元気よく挨拶してくれるおいしいちゃんおばあちゃん達等、心に安らぎを与えてくれるものがたくさんあると感じています。また、山頂からの眺めが良く、フェリーや貨物船が岸壁を利用している状況が一望できます。徳島小松島港が利用されている状況を見て、港湾整備の重要性を噛み締めて、日々の仕事に励んでいます。

執筆：企画調整課 山崎



日峰山からの眺望(本港地区を一望)

出前講座の申し込み受付中！

当事務所では、海と空の「みなと」のこと、また当事務所の仕事について、広く皆さんに知っていただくために、出前講座(みなと学習、環境学習、防災学習)を開講しています。

楽しく学べる当事務所の出前講座、現場見学会のご依頼を受け付けています。



出前講座、現場見学のお問い合わせは・・・

当事務所 TEL (0885)-32-3357

または ホームページ「暮らしを支える港湾と空港の話」
<http://www.pa.skr.mlit.go.jp/komatsushima/>
よりお問い合わせください。